

科目名	期別	単位数	開講年次	担当教員名
(新) (旧) 知的財産法Ⅱ	後期	2単位	(標) 2年 (既) 1年	帖佐 隆

授業目的	知的財産法のうち特許法は技術の累積進歩、産業の発達を促進するものとして、重要視されている。また、特許法に関する法曹の活動範囲も相当ある。このため、特許法等を理解し修得することは極めて重要な意義を持ち、法曹としてできるならば修得しておきたい法域である。 本講義では、知的財産法のうち特許法の講義を行う。法制度の内容等を解説し、まとめていく予定である。			
達成目標	特許法全体の知識および論点の修得。 特許法の問題に対して簡単な出力ができること。			
授業計画と予習事項	回数	各回タイトル(テキスト範囲)	授業内容 (2~3行)、予習基本事項 (1~2行、予習文献1~2) 全体各回 3~5行程度	
	1	特許法の目的、全体像、等	特許法の目的 特許権の効力 特許法における時間的な流れ、全体像、特許公報類 条文ならびに「標準特許法」(第3版)の該当ページを予習。	
	2	発明の定義、特許要件(1)	発明の定義 産業上利用性 条文ならびに「標準特許法」(第3版)の該当ページを予習。	
	3	特許要件(2)	発明の新規性 発明の進歩性 新規性喪失の例外 条文ならびに「標準特許法」(第3版)の該当ページを予習。	
	4	特許要件(3)	特許を受けることができない発明(32条) 先願主義(特許法39条) 拡大された先願の地位(29条の2) 条文ならびに「標準特許法」(第3版)の該当ページを予習。	
	5	特許を受ける権利、等	権利主体、発明者 特許を受ける権利、特許を受ける権利の共有 冒認 条文ならびに「標準特許法」(第3版)の該当ページを予習。	
	6	職務発明制度	従業者発明(職務発明) 発明者主義、定義、法定通常実施権 予約承継等の禁止・是認、対価請求権 条文ならびに「標準特許法」(第3版)の該当ページを予習。	
	7	出願書類、審査、等	出願書類 出願手続・審査手続 条文ならびに「標準特許法」(第3版)の該当ページを予習。	
	8	特許権の効力と侵害(1)	特許権の性質と効力 実施、発明のカテゴリー 消尽理論 条文ならびに「標準特許法」(第3版)の該当ページを予習。	
	9	特許権の効力と侵害(2)	特許発明の技術的範囲 均等論 不完全利用や改悪発明 条文ならびに「標準特許法」(第3版)の該当ページを予習。	
	10	特許権の効力と侵害(3)	間接侵害、みなし侵害 特許権の効力が及ばない範囲 条文ならびに「標準特許法」(第3版)の該当ページを予習。	
11	72条、73条、76条等	利用・抵触(72条) 特許権の共有 特許権の消滅要因 条文ならびに「標準特許法」(第3版)の該当ページを予習。		

	12	実施権、等	実施権 (通常実施権、専用実施権、独占的通常実施権、先使用权、等) 権利譲渡等 条文ならびに「標準特許法」(第3版)の該当ページを予習。
	13	侵害に対する対応策、等	侵害に対する救済手段 (民事=差止請求権、損害賠償請求権、等) (刑事=刑事罰) 条文ならびに「標準特許法」(第3版)の該当ページを予習。
	14	審判・訴訟、等	特許審判 審決取消訴訟、等 条文ならびに「標準特許法」(第3版)の該当ページを予習。
	15	条約、外国人、等、 (その他、比較法を行う場合もある。) 全体のまとめ、等	特許に関する条約 権利主体としての外国人 全体のまとめ等 条文ならびに「標準特許法」(第3版)の該当ページを予習。
授業方法・ 予習上の留意点(各回指示以外) 自習事項	<p>特許法の法文を用意し(おそらく法令集中に採録)、条文を確認しながら、各自、理解し、頭の中のまとめを行うこと。</p> <p>法文集にて法文の確認、テキストとレジюме等にて解釈や論点等を説明していく。</p> <p>しっかり内容を理解し、確認していくこと。また、手続等の流れもしっかりつかむこと。</p> <p>演習問題等でしっかり演習して、慣れていくことも大切である。</p>		
評価方法と 評価基準 (期末試験、 レポート、 ディベート 等)	<p>期末試験が60%の割合で、レポートが20%、そして、出席点が20%の割合で評価する。尚、レポートは適宜実施する予定である。</p> <p>論点、内容等を理解していることにより、総得点が80点に達する者にはA評価を行う。</p> <p>※定期試験は、概ね全体の中から出題。概ね全体を復習しておくこと。法文、重要用語、重要論点や重要判例の考え方を修得しておくこと。</p>		
テキスト 独自教材	①高林龍「標準特許法」(第3版)有斐閣、②「特許判例百選」第3版、③特許法が掲載された法文集。以上①②③は必須。その他はこちらで用意します。(オリジナルレジюме、等。)		
参考書 (3~5冊)	青山紘一「特許法」法学書院、中山信弘「特許法」弘文堂、 田村善之「知的財産法」有斐閣、渋谷達紀「知的財産法講義I」有斐閣、 紋谷暢男「知的財産権法概論」有斐閣、等。		